

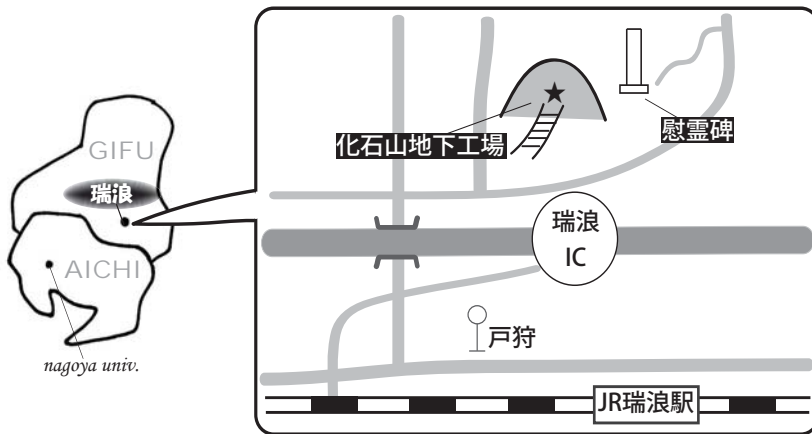
# Peace Now!21

## #8 化石山にいこう！



こんにちは、じえにいです。今回は私が「Peace Now!21」をお届けします。  
さて、私は2006年9月17日に瑞浪の化石山にて行われた  
中国人殉難者慰霊40周年記念行事を見学し、お話をきいてきました。  
みなさんにもその様子を少しお伝えしたいと思います。ではではLet's go!!

### ■化石山ってどこにあるの？■



近くには化石の博物館、芝生やグラウンドもあります。山の緑がきれいで、自然も味わえます。名前の通りこの付近では化石がとれるそうですよ。

#### アクセス

JR中央線 瑞浪駅下車 徒歩30分・タクシー 5分  
東鉄バス日吉線 戸狩下車 徒歩15分  
中央自動車道 瑞浪インターより車3分

### ■化石山で何があったの？■

第二次大戦末期、岐阜県瑞浪市明世町戸狩の化石山で軍用機の地下工場の建設が進められた。日本軍は、中国の河北省・山東省などで農民、青年などを無差別に捕らえて日本に連行した。1945年の4月と5月に、中国人330人を瑞浪に動員し過酷な作業を強いた。

ツルハシで岩を削りくんだり、もっこで岩くずを運び出すという作業…。中国人作業員を殴る・蹴る等は日常茶飯事で、動物以下の扱いだっただろう…。食事は一日パン3つだけで、作業は12時間以上にも及んだ。…重労働と栄養失調、虐待、肺結核、両眼失明などが原因で39人が命を落とした。

地元の住民はこうした境遇に追いやられた中国人に同情して、憲兵の目を盗んで芋などを中国人捕虜に手渡ししていたという。

終戦後、全国各地で強制労働から解放された中国人による暴動が起きていた。ところが瑞浪では暴動が起きることはなく、化石山の強制労働から解放された中国人は感謝の意を示し、さらには贈り物を渡し気持ちのいい態度で中国に帰っていったそうだ。

こうした中国人たちに感激した地元の人々は、化石山で命を落とした中国人を丁寧に葬り、「日中不再戦の碑」を建立し、毎年日中戦争勃発の日の前後に慰霊祭を執り行っている。

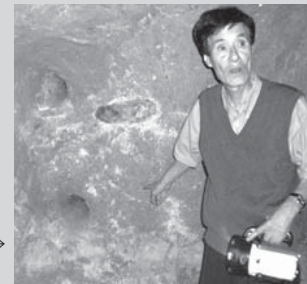
## ■実際に化石山に行ってきました！■

### 地下工場

ヘルメットをかぶり、懐中電灯を片手にいざ出発！  
中はひんやりと涼しく、また薄暗くて懐中電灯がないとよく見えません。  
工場の全長は約7.6km。でも途中で閉鎖されていて一部しか見ることが出来ませんでした。この化石山の土は「サバ」と呼ばれるもろくて掘りやすいものなので、急を要する地下工場づくりには適していたそうです。

土の壁にはツルハシで削った跡や、掘り進めるために壁にダイナマイトを入れて爆破した跡、そして労働者が残した文字が今も生々しく残っていました。

ダイナマイトで爆破したあと土煙でもうもうとした中での作業があったり、疲労で倒れた中国人が槌の棒で叩かれたり、落盤により朝鮮人労働者が亡くなったり、遺体を現場で油をかけて火葬したり・・・という話を当時その現場で働いていた日本人の方から聞きました。その過酷な労働現場が目浮かぶようでした。



ダイナマイトで爆破した跡→

### 慰霊祭



←慰霊祭の様子

慰霊祭は「日中不再戦の碑」で行われます。この慰霊碑は1972年に工場のある化石山の上に建てられました。

この慰霊祭は今年で第40回を迎え、節目になる慰霊祭ということでたくさんの参拝者が訪れてました。私も参拝させていただきました。

また慰霊祭の後、記念行事として化石山青年劇団による「化石山」という演劇も鑑賞してきました。日本人の少年二人が、強制労働で連行された中国人労働者と心を通わせるというストーリーでした。戦争の醜さ、人々の良心について考えさせられました。

私は「中国人や朝鮮人の強制労働があった」ということは知っていましたが、  
詳しい様子などは学校でも習うことはないし誰も教えてくれることはありませんでした。  
しかし実際化石山の工場跡を見学し、話を聞いて労働の過酷さを知りとても胸が痛みました。

中国人労働者330人については知られていますが、  
5000人～6000人にのぼるとも言われる朝鮮人労働者についての資料は処分されてしまい  
今ではまったくわからないそうです。

今回この化石山見学を通して改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さを感じました。

こんなことは二度と繰り返してはいけないと思います。

「平和への小さな一歩は私が知ったことを人に伝えることかな」と思いこの記事を書きました。

**あなたにも伝えたいこと、ありませんか？**

文責:じえにい